

# 生分解性マルチ(0.015mm厚)の実用性確認試験

JA 苫前町

(株) 陽 穂



24年8月17日 6月27日と同地点にて撮影



24年6月27日 慣行区、右端試験区1列のみ

## 試験目的

生分解性マルチ(0.015mm厚)の実用性を確認することを目的とする

## 試験作物 及び品種

南瓜(品種:こぶき)

## 試験資材 及び数量(規格)

エコディア(0.015mm×95cm×400m 黒 無孔)

## 慣行資材

エコディア(0.018mm×95cm×400m 黒 無孔)

## 栽培方法

### 定植日

6月16日

【栽植密度】 畝幅:3m 株間:70cm

## 資材使用期間

6月上旬～10月下旬

## 試験区面積

1200㎡



24年10月5日 試験区



24年10月5日 慣行区

## 試験結果

### (1)作業性について(慣行品との比較)

特に変わらない。

### (2)作物の生育状況または、収穫への影響

生育に関する差は無い。

### (3)栽培管理上の優位点について

フィルムの厚さの違いによる崩壊遅速の差があるか懸念されたが、特に差は無く、収穫期までの雑草抑制効果は慣行品と同等であった。

### (4)資材の強度・耐久性・崩壊性について

上記(1)～(3)の通り、フィルムの厚さの違いによる作業性・崩壊性の差は見られず、特に問題は無い。

### (5)保温効果について

慣行品との差は無い。

### (6)雑草・病害虫の発生について

南瓜栽培においては、マルチ崩壊が早いと、その間から雑草が発生してくるが、今回の両資材についてはそのような問題は生じなかった。

## モニター感想

昨年からエコディアを使用しており、今年はより薄い0.015mm品での試験であったが、マルチフィルム崩壊までの期間は昨年と同様であり、長期間雑草発生を抑えられ、安価である点は評価できる。

## JA担当者の感想(立崎 氏)

農家が使用しての印象・感想が良く、価格引き下げにもつながるため、管内南瓜生産者に対し積極的に推進していきたい。

## 今後の使用について

継続して使用したい。

## 将来希望する資材について

今回のエコディアのように、作業性・機能性は変わらずに、より安価な資材の開発に期待している。

1 クリント

2 高温対策

3 害虫忌避効果

4 滑雪効果

5 生分解性マルチ

6 その他

7 酪農資材